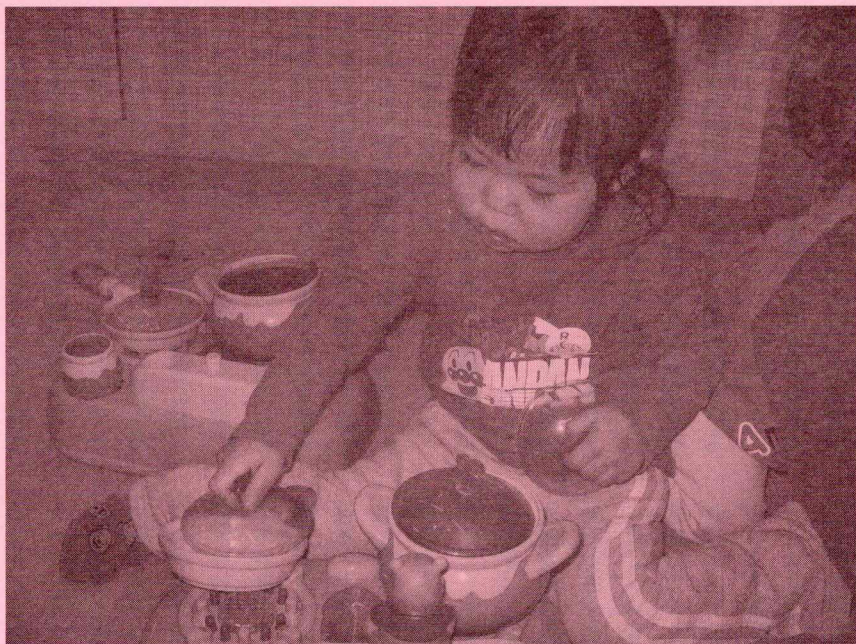


# ぴーちっこ

発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
聖友乳児院（乳児院）  
聖友学園（児童養護施設）



夢中!

あそびに

目次	●コラム「ひとりの大人として」	学習ボランティア 清水憲二	2
	●もぐもぐ 学園・茜ホームの紹介		5
	●決算報告		6
	●「ありがとうございました」		7

〒166-0001 杉並区阿佐谷北 3-28-19

聖友乳児院 TEL 3338-1849 FAX 3338-4679

聖友学園 TEL 3338-1844 FAX 3338-1894

Eメール（共通） [seiyugakuen@nifty.com](mailto:seiyugakuen@nifty.com)



## ひとりの大人として

—学習ボランティアを続けて—

清水 憲二

私が中野区の私立中学・高等学校に奉職して16年が経っていた。その間に様々な生徒やそのケースに対処し、子どもの成長における中等教育の難しさや大切さを感じていた。

大学を卒業してそのまま転勤の無い私立学校に勤務して、固定した価値観や経験だけで社会とのズレも分からないままに生徒達に接している自分に疑問を持つようになった。それは反面、自分に対して余裕ができ、客観的に物事を見ることができるようになったとも言えるかもしれない。

そこで日々の生活から一歩踏み出すことにした。教員は生徒に対して「○○すべきだ」と言って指導するけれど果たして自らは一人の人間として○○しているかは疑問である。「本音と建前」が色濃い世界である。その当時取り上げられつつあった「ボランティア」はその最たるものである。まず自らが取り組んでみよう、そして新しい世界をみて自分を又振り返ってみようと思った。

しかし私には人のために何ができるのだろうか。

か。

当時興味を持って取り組んでいた「朗読」を生かせないかと区のボランティアセンターに相談に行った。地域での朗読ボランティアの実態は、市町村で実施されている朗読講座の受講者達がその後サークル活動として集まっていた（主婦が中心で）、私のような男が入り込むものではないことが分かった。そしてその時に紹介されたのが養護施設での「学習ボランティア」だった。

養護施設？「養護」という言葉からよく肢体不自由な子ども達を預かる施設と間違えられるが、当時の私もよく理解していたわけではなかった。

夏休みが始まった8月のある日、面接のために聖友学園に向かった。

学習ボランティアは小学生から中学生までの一人を担当して、勉強をみてあげたり、職員と違う立場で話を聞いたり相談を受けたりして生活支援の一部に関わることができ、教員としての経験を生かせるかなと思ってお引き受けすることにした。

9月から私の手帳には小学5年のA君の名前が記載されている。週1回7時半から1時間半のお付き合いが始まった。夕食の片づけを終えた頃の時間である。学習室や職員の休憩室を使って彼と向かい合っていた。終わって家に帰っていくのは10時になる。

A君は落ち着きが無く、じつと座っている事ができなかった。算数の成績が悪かったので、まずは4年生の復習からやり直し、少しずつは進んだがなかなか興味を持つまでには至らなかった。

彼自身の事はよく話してくれた。父親は事故で亡くなり、母親は九州に住んでいるが連絡はない。諭の母親を彼は強く求めていた。施設にいる少年達の共通した思いは母親なのだろう。ある日彼が1冊のノートを見せた。書きためた詩である。施設にいる事での学校でのいじめが色濃く、そして時々見え隠れする母への思いが綴られていた。

学習室においてあったパソコンとプリンタを使って、A君の詩集を作ることにした。彼は集めてきてキーボードを打っていた。表紙をつけ、立派な彼の詩集ができあがった。彼の一つの才能が芽を出した。

そして中学生になった。次に彼が集中できたものはギターだった。彼は尾崎豊に傾倒していた。「15の春を突っ張って歌いたかったのだ。ギターのコードを教えた。よく練習した。そしてミニ豊が自分の心を弾き語りで歌って聞かせてくれた。

中学生になると友人関係がまた複雑になる。A君に近づく少年達。彼らは家庭には住んでいながらも親から満たされることなく飛び出している子ども達である。学園職員の皆さんは子ども



も達にハンディを持たせないように面倒見てくれているがやはり悪い誘いに対処するのは難しい。A君は次第に変わり、個別指導室で生活する時期が増え、私が学園に行くことが時々途切れた。そして翌年の春以降はもう彼の名前は手帳にない。

形だけの家庭に住む子ども達とその親達、安らかな家庭を持って施設に入った子ども達と肉親ではないが良い環境を作ろうとしている施設の職員。大人の犠牲になるのは無邪気な子ども達である。しっかりした家庭ばかりなら施設が存在は本来のものではないが待機児と潜在的な待機児が増えているこの社会は本当に病んできている。A君との出会いが私に新しい視野を広げてくれた。

次に依頼が来たのは翌年の8月だった。中1のBさん、活発な女子だった。教育ボランティアは塾や家庭教師のように受験指導も求められる。彼女とは高校入試を終えて合格が決まるまでの2年半の間受験を目指した数学や英語の勉強を見ることになった。

Bさんは年頃の女の子なので共同生活に不満があった。プライバシーやお小遣いがその中心だ。友達が持っている携帯がうらやましい。反抗期も迎え、職員の指導もうまく受け入れなくなってきた。こんなところは出て行って、友達の家泊めてもらおうといつも言っていた。私としてもなだめたりすかししたり。

全ての中学生が明らかな将来の目的を持って高校に進学していく訳ではないが、施設にいる子ども達に将来に明るい希望を持たせるのは難しい。そうは言っても高校卒業と共に原則としては退所して自立しなければならぬために施設では早い時期から進学や就職の指導をしている。

ある意味では女子の方がクールに物事を割り切れるところがあるのか、特に大きな問題もなく彼女は公立高校に合格して私の役割は終わった。ところが入学して間もなく自主的な退所を敢行してしまった。施設にいる事、高校に行くことが彼女にとつての幸せでないなら、自らの力で新しい道を切り開いていってあげれば良いわけだが、職員の方々ともため息をついた。15歳の少女にたくさんの試練が待っている。

3番目の出会いは元気な5年生の丸刈りサッカー少年C君だった。4年間で180回も続いた。週1回として年間最大でも48回だから随分頑張っけて付き合ったことになる。今は社会人として元気に過ごしてくれている事だろう。

5年生から中学3年生までの間、彼の成長を見守りつつ色々な話が出来た。担当の職員が若い女性だったこともあって自分の子どもにはできなかった性教育もした。お父さんでもない、お兄さんでもない、そして職員でもない、彼にとつてはとても気楽に話せる存在だったのだと思う。

教科の勉強もしたが、科学実験、朗読他、もちろんギターもよく練習した。学園の色々なイベントでは腕前を得意になって披露していた。

彼は学園の子ども達の中でも際立っていつも明るく前向きだった。学校でもクラブ活動の中心となつて活躍していた。友達にも恵まれていたのだろう。お母さんは事情があつて彼を引き取れないがご健在で時々会えることが彼に精神的な安定をもたらしていたと思う。

ボランティアに興味のある私の教え子に彼の高校合格を話したら、お祝いのケーキを焼いてくれた。それをもって2人で彼を訪ねた。とても感激してくれた。成人になったら一杯やりたいなと今から楽しみにしている。職員でもなく親でもない、一人の大人として。

4番目の出会いは絵の大好きな中2のD君だった。まだ学園に来たばかりで、生活にも慣れず表情も厳しい頃だった。物心ついてからの新しい生活はかなり難しいものである。彼自身は母親と住むことを強く望んでいるので無理やり引き離されてしまったという意識が強くあつた。児童相談所の担当者や施設職員に対する不満が会っている時は必ず出てきた。数学の問題を解きながら自分の生活を悲観していた。そして出て行くことばかりが頭を駆けめぐっていた。

気分の調子がいいときは明るく冗談も言いながらいろいろ話が出来たが、一度落ち込むと天を睨んで終わってしまった。転校生となった



中学校の先生とも確執があった。そして学園の職員とも。共同生活で決められたルールを受け入れるだけの余裕は無かったのだろう。ある時いつに無く彼は饒舌に話し始めた。若い職員に対する初恋の甘い思いだった。思春期の揺らぎも彼を翻弄させた。

彼にとつては将来の希望も無いまま中3の受験時期を迎えた。入試過去問題集をもって新たな年度を始めた矢先の5月に自主的に出て行ってしまった。彼なりに自分の望む生活を獲得するために大人顔負けの行動力を示したがやはり限度があり、とても心配な状況に置かれているようだと言った。学園職員の無念さが察せられる。

そして5番目の出会いが小学6年の野球少年E君だった。

週1回のわずか1時間半程度で画期的に学力向上が果たせるわけでない。彼らが自ら学ぶことに興味を持ち自らが鉛筆を持つ姿勢をつくることが出来れば大成功である。算数の問題がでさずに癩癩を起こしている彼を見て、楽しさを持ってもらえるものは何かと考えた。私は長い間理科の教員だった事を自分も再発見したいこともあって、望遠鏡を持参して屋上で星を眺めしたがっていたし、実際に土星が大きく見えた時には彼なりに感動していた。私も味を占めて、でんじろう先生よろしく毎週いろいろな実験を

やることにした。目の輝きが増してきたように思う。

半年後に新しい生活の場に旅立っていった。何年後にプロ野球選手の彼に出会えたら。

そして6番目の出会いが今週で36回を数える。部活で真っ黒に日焼けしたF君。冗談を言いながら楽しい時間を過ごしている。嬉しいことに理科が好きで(本人曰く特に生物系)、大学で教えている事を話しても頭にすっと入っている。後は英語や数学にもその自信が反映されることを願っている。

大人による子どもの虐待、さらには殺人までニュースとして取り上げられない日が無い。そして大人の様々な不祥事。子どもを取り巻く環境は21世紀を迎えて加速的に悪くなってきた。集団下校しなければならぬことが意味するものは何だろうか。

あるきっかけから児童養護施設にわずかながらかかりを持つことになりいろいろな思いを持った。その十年後に児童養護施設の職員ともなる「保育士要請施設」の設置と、自らがその養成に関わるとは思っていなかった。大げさに言えば私のライフワークになった。

矛盾することではあるが、全ての子ども達に安らぎの家庭があり、このような施設が早く無くなる日を願いたい。そのためにしなければならぬことは何だろうか。

大人はかつて皆子どもであった。精神的に満たされた子どもは満たされた、そして他を満たす大人に成長し、満たされた子どもを生み出す。満たされなかった子どもは満たされない大人になり、満たされない子どもを生み出すことになる。親がわが子をいつくしみ、周りの大人がそれを支えること。その中で大事なかわりを果たす幼児教育者を育成する私たちには大きな責任がかかっている。(終わり)

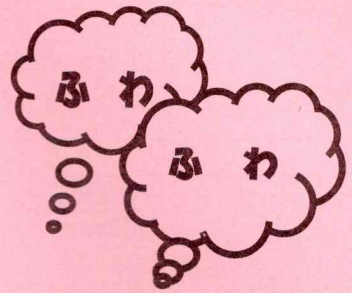
.....\*.....\*.....\*.....\*.....\*

現在、聖友学園では6名の児童が学習ボランティアの方々に、4人の児童が地域の塾に通塾という形でお世話になっています。就学以降に入所してきた児童の中には、勉強の基礎が身につけておらず自分の学年の学習についていけないということが多く見られます。また各ユニット、幼児から高校生までが生活しているので落ち着いた学習環境が整えにくいという課題もあります。このような現状の中で、児童と1対1で学習だけでなく、様々なかわりを持つていただいていることは、学習能力の向上だけでなく、精神面での発達にも大きな影響があると考えます。これから、地域の方々、ボランティアの方々のお力添えをお借りし、『満たされた子ども』を育てていけるよう職員一同努力していきたくと思います。

(ぴーちっこ編集委員会)



# 茜ホーム



2008年4月、聖友学園に新しいグループホームができました。“茜ホーム”です。  
この名前には……

- 茜の木のようにたくましく育て欲しい。
- 茜色(夕やけの色)のように温かい気持ちを持ち育て欲しい。
- ……という願いが込められています。

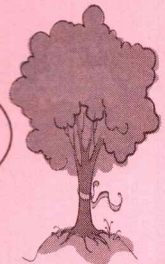
現在幼稚園の年少から小学校2年生までの6人が生活しています。



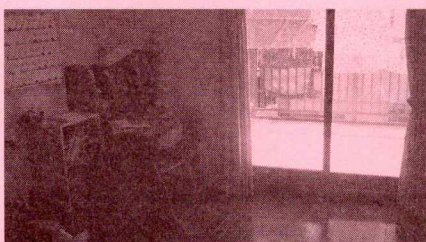
「どうすればみんなで仲良く生活する事ができるか？」という職員の問いかけにみんなそろって「けんかをしない！！」と言っていました。まだまだけんかは見られますが、どうすれば相手が喜ぶか、悲しむかを考えられるようになってきています。いろいろな経験をしてホームの名前のようにたくましく心の温かい大人になって欲しいと思います！！



晴れの日日は日がよく当たってあたたか～い☀



食堂です！！いろいろな話をしながら楽しい食事。今日はどんなことがあったのかな～？？



小学生は2階のお部屋を使っています☆今日も勉強頑張りました！！



## 平成19年度 社会福祉法人聖友ホーム決算報告

平成20年3月31日

		法人本部	聖友乳児院	聖友学園	自立援助基金	
經常活動による収支	収入	措置費収入	0	247,627,986	186,126,289	0
		補助金収入	0	28,539,000	85,281,446	0
		寄附金収入	917,114	498,800	650,000	406,000
		雑収入	1,135,920	3,398,112	6,357,781	0
		受取利息配当金収入	30,789	291,748	276,041	27,231
		繰入金収入	0	373,614	493,500	0
		<b>經常収入計</b>	<b>2,083,823</b>	<b>280,729,260</b>	<b>279,185,057</b>	<b>433,231</b>
		支出	人件費支出	411,107	224,570,857	185,451,297
	事務費支出		791,649	17,267,420	27,380,954	420
	事業費支出		0	20,693,412	46,796,119	0
繰入金支出	747,114		0	0	0	
<b>經常支出計</b>	<b>1,949,870</b>		<b>262,531,689</b>	<b>259,628,370</b>	<b>420</b>	
<b>經常活動資金収支差額</b>		<b>133,953</b>	<b>18,197,571</b>	<b>19,556,687</b>	<b>432,811</b>	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	0	185,250	0
		施設整備等寄附金収入	0	0	500,000	0
		<b>施設整備等収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>685,250</b>	<b>0</b>
	支出	固定資産取得支出	120,000	101,850	6,707,920	0
		<b>施設整備等支出計</b>	<b>120,000</b>	<b>101,850</b>	<b>6,707,920</b>	<b>0</b>
<b>施設整備等資金収支差額</b>		<b>-120,000</b>	<b>-101,850</b>	<b>-6,022,670</b>	<b>0</b>	
財務活動による収支	<b>財務収入計</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
	支出	借入金元金償還金支出	0	1,100,000	0	0
		積立預金積立支出	0	14,000,000	1,230,000	0
		<b>財務支出計</b>	<b>0</b>	<b>15,100,000</b>	<b>1,230,000</b>	<b>0</b>
	<b>財務活動資金収支差額</b>		<b>0</b>	<b>-15,100,000</b>	<b>-1,230,000</b>	<b>0</b>
<b>当期資金収支差額合計</b>		<b>13,953</b>	<b>2,995,721</b>	<b>12,304,017</b>	<b>432,811</b>	

前期末支払資金残高	5,604,741	45,751,200	28,952,167	7,124,814
当期末支払資金残高	5,618,694	48,746,921	41,256,184	7,557,625

## 松坂自立援助基金賛助会

収入	会費収入	458,400	支出	郵便料金	17,480
	寄附	21,000		振込み手数料	17,900
	預り金	2,400		印刷費	400
	繰越金	104,095		残高証明発行	500
				寄附金(基金へ)	400,000
	<b>合計</b>	<b>585,895</b>		<b>合計</b>	<b>436,280</b>
<b>次年度繰越金</b>		<b>149,615</b>			



☆ ぴーちっこの広場です ☆  
 お集まりください

「ぴーちっこ」は皆様とたくさんのお話ができる広場になるうとスタートしました。皆様には、「おたより」のかたちで広場に集まっていたいただき、子どもたちに関する様々な事柄を一緒に考えていきたいと思っています。

皆様からのたくさんのお便りをお待ちしております。下の用紙を切り取って、「意見」「感想などお寄せください。ファックス、Eメールでもけっこうです。

※ Eメールの場合は、件名に「ぴーちっこ係」と入れて下さい。」

「ありがとうございました」

次の皆様よりご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(平成二十年四月～平成二十年九月。敬称略)

△寄付金▽

朝日管財株式会社、東京青少年文化協会、床次瑞彦、曾我祐次、金巻喜美子、新井哲也、野村栄子、東和開発株式会社、ドレスナー証券、世尊院幼稚園園長 大澤聖隆、三井精肉店、道原商店、渡辺文具店、魚音、広瀬青物店、遠藤商事、西島畜産

の り づ け

お

る

※今後継続して「ぴーちっこ」の送付を希望されますか? ・はい ・いいえ

ご住所 \_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

の り づ け

△寄付物品▽

(株)想進、全国ビスケット協会、株式会社マークス、株式会社東芝、KIDS、セカンドハーベストジャパン、株式会社ベルン、東セロ株式会社、食肉生活衛生同業組合、フィールズ株式会社、山本英俊オフィスマレン、株式会社エレファントコミュニケーションズ、赤水秀徳、浅野佳代子、斉藤秀夫、林美幸、坂田佳之、寺本立郎、藤田理、鈴木栄子、久世勝己、副島雅之、玉造真理、ドレスナー証券、坂本テル子、メリルリンチ日本証券株式会社

△パースデーフレンド▽

中禮子、梅澤文治、近藤由理、杉本秀哉、豊島みのり、藤川民子、松田由希子、三ツ木吉和、西塚聖子、杉本洋子、大澤芳子、小出邦子、村上千代子、森真理子、杉本千景、酒井香子、比嘉芳子、神崎早苗、高山千賀子、宮秋智子、磯野和子、野村栄子

△招待▽

東京ジャーナリストクラブ(凧揚げ大会)、日本放送協会(NHKこどもミュージカル)、NPO法人OWS(ネイチャースクール)、おもいつき(興津臨海学園)ドレスナー証券(フットサル、一身体験旅行)

166-8790

料金受取人払

杉並局  
承認

2048

差出有効期間  
平成21年6月  
30日まで  
(切手不要)

東京都杉並区阿佐谷北3-28-19

聖友ホーム「ぴーちっこ」係行

